

専門紙誌5社2024共同キャンペーン 地域が創る復興・活性化の未来図〜大災害の教訓から

東日本大震災からの復興が残したものの

戸羽太・前陸前高田市長に聞く



高田松原津波復興祈念公園「奇跡の一本松」をバックに

戸羽太氏は、平成7年4月〜19年2月陸前高田市長、20年2月〜22年12月同市副市長、23年2月〜令和5年2月同市市長として3期にわたる市長として復興

観光経済新聞、東京交通新聞、塗料報知、農村ニュース、ハウジング・トリビュン等の専門紙誌では、防災・復興をテーマとした連携企画「地域が創る復興・活性化の未来図〜大災害の教訓から」を展開中。過去の大規模災害を取り上げ、専門家へのインタビューを通じ、地域・産業振興のあり方を探ります。第3回は2011年3月11日の「東日本大震災」。岩手県陸前高田市の前市長で、現在はコンサルティング業務などを手掛けるオフィスTOBA社長の戸羽太氏に話を聞きました。

震災前より良いまちに「減災」へ日頃から備えを

市長就任後4週間で東日本大震災が発生。戸羽太氏は津波が来ない想定外。自身も大変な被害に遭われた。被災した地域では「宮城復興地帯」が30年以内に99%の確率で起きると、今の南海トラフのように予測されていた。市民の皆さんが意識をして、役所も当然意識をしていて。訓練も、「いつ来ても大丈夫」くらいの準備をしていた。

私たちは地域を元気にする取り組みを応援します

ITOMIC

日本イトミックは
クリーン＆グリーン電気給湯
で地球に優しい給湯の普及に努めます

化石エネルギー
電気エネルギー

日本イトミックは電気給湯にこだわり、地球を汚すことのない「クリーン＆グリーン電気給湯」の普及に努め、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて給湯分野で貢献します。

株式会社日本イトミック
URL: <https://www.itomic.co.jp/>

SAKURA QUALITY

サクラクオリティは、**安全・安心・誠実さ**を感じる宿泊施設に**対する品質認証制度**

宿泊施設の「価値」には様々な要素があります。ホテル旅館不動産価値、事業価値、宿泊準備、顧客満足、従業員満足、社会的貢献度、地域性、文化発信力、安全安心要素、ネットワークのハブ機能…私共は徹底して、宿泊施設の「価値」を追求します。サクラクオリティは、観光圏、DMO等との共同プロジェクト「宿泊施設品質認証制度」であり且つ品質向上プログラムです。

一般社団法人 観光品質認証協会
URL: <https://www.sakurastay.com/>

MISAWA

省エネで快適な住生活を
グラスウール断熱材で実現する

安全・安心の国内・自社工場で原料に89%以上のリサイクルガラスを採用して生産しています。2023年度空き缶や使用済みの窓ガラス等のリサイクルガラスを原料としているため資源の再利用にも貢献する地球に優しい製品です。

MISAWA GENERAL SOLUTION

JKKENWOOD

タクシー事業者様へご提案です!

「新クラウド型配車システム CABmee で、コールセンターをプロフィットセンター化しませんか?」

CABmee

新クラウド型タクシー配車システム

で検索!

JVCKENWOOD

日本農業機械工業会は、農業の健全な発展と食料安全の確保を応援しています。

一般社団法人 日本農業機械工業会
東京都港区芝公園3-5-8
<http://www.jfmma.or.jp>

建設・環境機器、農林業のバイオンニア

諸岡は地方創生を応援します

MOROOKA

株式会社諸岡 茨城県龍ヶ崎市長倉新田町358
TEL: 0297-66-2111
<https://www.mrook.co.jp>

HAPPY PAINT PROJECT

BY NIPPON PAINT Co., Ltd.

いっしょに「社会貢献活動」しませんか?

日本ペイント 広報室
E-mail: nptmarkpr@nipponpaint.jp

日本ペイント株式会社

関西ペイントグループは、塗料事業で培った技術と人財を最大限に活かした製品・サービスを通じて、人と社会の発展を支えます。

KANSAI PAINT

www.kansai.co.jp

発電機は欲しいけど
今度でいいかな…
後で考えよう
になってませんか?

発電機導入のメンテナンスを
一手にお任せします。

停電対策ソリューション
カグラバーテック株式会社

各紙誌の視点で見ると東日本大震災からの復興

一時帰宅をサポート 復興へバス・タクシーが貢献

復興に歩む東日本大震災被災地の福島。来年3月で被災から14年を迎える中、福島が制限されている。地元大手のいわきタクシーグループ（南相馬市）富岡町大熊町、（福島県いわき市）門馬成美代表は、復興に向けた取り組みを語る。

01年3月11日。巨大地震による津波は、小名浜から500以上の位置にある本社の目撃まで迫ったが、幸いに避難を逃れた。営業車も無事だった。

代表は前福島県タクシー協会会長、いわきタクシー協会副会長として活動する。いわきタクシーグループは、避難住民の一時帰宅をサポートし、水素燃料電池車（FCV）を積極的に導入する。政府側から日本バス協会の車両提供リストを80台に用意している。いわきタクシーグループが運転業務を専任で引き受けた。門馬代表は、「他のバス会社が、労働組合の反対もあり、一時帰宅をサポートするのは、いわきタクシーの強み」と語る。いわきタクシーは、いわき市を中心に、タクシー事業者を支援している。いわきタクシーは、いわき市を中心に、タクシー事業者を支援している。

5月に入り、いわき市に「いわき市」を積極的に導入する。政府側から日本バス協会の車両提供リストを80台に用意している。いわきタクシーグループが運転業務を専任で引き受けた。門馬代表は、「他のバス会社が、労働組合の反対もあり、一時帰宅をサポートするのは、いわきタクシーの強み」と語る。いわきタクシーは、いわき市を中心に、タクシー事業者を支援している。



福島県いわき市、門馬成美代表ら。いわきタクシーグループは、避難住民の一時帰宅をサポートし、水素燃料電池車（FCV）を積極的に導入する。

先端技術で収益性高め 自立的・持続的な発展を目指す

復興に向けた取り組みの一環として、福島県いわき市に「いわき市」を積極的に導入する。政府側から日本バス協会の車両提供リストを80台に用意している。いわきタクシーグループが運転業務を専任で引き受けた。門馬代表は、「他のバス会社が、労働組合の反対もあり、一時帰宅をサポートするのは、いわきタクシーの強み」と語る。いわきタクシーは、いわき市を中心に、タクシー事業者を支援している。

2017年3月11日発生した東日本大震災。多くの被災者とともに、復興に向けた取り組みの一環として、福島県いわき市に「いわき市」を積極的に導入する。政府側から日本バス協会の車両提供リストを80台に用意している。いわきタクシーグループが運転業務を専任で引き受けた。門馬代表は、「他のバス会社が、労働組合の反対もあり、一時帰宅をサポートするのは、いわきタクシーの強み」と語る。いわきタクシーは、いわき市を中心に、タクシー事業者を支援している。

3月17日までに全ての宿泊客が帰郷したが、被災者や高齢者など、自給自足の機能が低下している。いわき市は、復興に向けた取り組みの一環として、福島県いわき市に「いわき市」を積極的に導入する。政府側から日本バス協会の車両提供リストを80台に用意している。いわきタクシーグループが運転業務を専任で引き受けた。門馬代表は、「他のバス会社が、労働組合の反対もあり、一時帰宅をサポートするのは、いわきタクシーの強み」と語る。いわきタクシーは、いわき市を中心に、タクシー事業者を支援している。

震災を風化させない 語り部バスやシンポジウムで

宮城県南陸部の南三陸の「語り部バス」を毎日、朝約200人が参加した。このバスは、震災から14年経つ現在も、被災者の声や経験を生かして、後世に伝える役割を果たしている。語り部バスは、被災者の体験を語り、被災地の現状や復興の進捗について話し合う。語り部バスは、被災者の体験を語り、被災地の現状や復興の進捗について話し合う。

語り部バスは、被災者の体験を語り、被災地の現状や復興の進捗について話し合う。語り部バスは、被災者の体験を語り、被災地の現状や復興の進捗について話し合う。語り部バスは、被災者の体験を語り、被災地の現状や復興の進捗について話し合う。

語り部バスは、被災者の体験を語り、被災地の現状や復興の進捗について話し合う。語り部バスは、被災者の体験を語り、被災地の現状や復興の進捗について話し合う。語り部バスは、被災者の体験を語り、被災地の現状や復興の進捗について話し合う。

蓄光塗料で安全対策 商家確保や事業持続努める

東日本大震災において、東北地方の塗料販売業者は、被災後の復興に貢献した。蓄光塗料は、夜間の避難や安全対策に有効で、被災地を中心に需要が高まっている。蓄光塗料は、夜間の避難や安全対策に有効で、被災地を中心に需要が高まっている。

蓄光塗料は、夜間の避難や安全対策に有効で、被災地を中心に需要が高まっている。蓄光塗料は、夜間の避難や安全対策に有効で、被災地を中心に需要が高まっている。蓄光塗料は、夜間の避難や安全対策に有効で、被災地を中心に需要が高まっている。

蓄光塗料は、夜間の避難や安全対策に有効で、被災地を中心に需要が高まっている。蓄光塗料は、夜間の避難や安全対策に有効で、被災地を中心に需要が高まっている。蓄光塗料は、夜間の避難や安全対策に有効で、被災地を中心に需要が高まっている。



2016年10月撮影。復興地の状況。

復興に歩む東日本大震災被災地の福島。来年3月で被災から14年を迎える中、福島が制限されている。地元大手のいわきタクシーグループ（南相馬市）富岡町大熊町、（福島県いわき市）門馬成美代表は、復興に向けた取り組みを語る。

01年3月11日。巨大地震による津波は、小名浜から500以上の位置にある本社の目撃まで迫ったが、幸いに避難を逃れた。営業車も無事だった。

代表は前福島県タクシー協会会長、いわきタクシー協会副会長として活動する。いわきタクシーグループは、避難住民の一時帰宅をサポートし、水素燃料電池車（FCV）を積極的に導入する。政府側から日本バス協会の車両提供リストを80台に用意している。いわきタクシーグループが運転業務を専任で引き受けた。門馬代表は、「他のバス会社が、労働組合の反対もあり、一時帰宅をサポートするのは、いわきタクシーの強み」と語る。いわきタクシーは、いわき市を中心に、タクシー事業者を支援している。

復興に歩む東日本大震災被災地の福島。来年3月で被災から14年を迎える中、福島が制限されている。地元大手のいわきタクシーグループ（南相馬市）富岡町大熊町、（福島県いわき市）門馬成美代表は、復興に向けた取り組みを語る。

01年3月11日。巨大地震による津波は、小名浜から500以上の位置にある本社の目撃まで迫ったが、幸いに避難を逃れた。営業車も無事だった。

代表は前福島県タクシー協会会長、いわきタクシー協会副会長として活動する。いわきタクシーグループは、避難住民の一時帰宅をサポートし、水素燃料電池車（FCV）を積極的に導入する。政府側から日本バス協会の車両提供リストを80台に用意している。いわきタクシーグループが運転業務を専任で引き受けた。門馬代表は、「他のバス会社が、労働組合の反対もあり、一時帰宅をサポートするのは、いわきタクシーの強み」と語る。いわきタクシーは、いわき市を中心に、タクシー事業者を支援している。

復興に歩む東日本大震災被災地の福島。来年3月で被災から14年を迎える中、福島が制限されている。地元大手のいわきタクシーグループ（南相馬市）富岡町大熊町、（福島県いわき市）門馬成美代表は、復興に向けた取り組みを語る。

01年3月11日。巨大地震による津波は、小名浜から500以上の位置にある本社の目撃まで迫ったが、幸いに避難を逃れた。営業車も無事だった。

代表は前福島県タクシー協会会長、いわきタクシー協会副会長として活動する。いわきタクシーグループは、避難住民の一時帰宅をサポートし、水素燃料電池車（FCV）を積極的に導入する。政府側から日本バス協会の車両提供リストを80台に用意している。いわきタクシーグループが運転業務を専任で引き受けた。門馬代表は、「他のバス会社が、労働組合の反対もあり、一時帰宅をサポートするのは、いわきタクシーの強み」と語る。いわきタクシーは、いわき市を中心に、タクシー事業者を支援している。

未曾有の被害に対応 応急仮設住宅に新たな広がり

東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）は、震災発生から14年経つ現在も、被災者や高齢者など、自給自足の機能が低下している。応急仮設住宅は、被災者の生活を支える重要な役割を果たしている。応急仮設住宅は、被災者の生活を支える重要な役割を果たしている。

応急仮設住宅は、被災者の生活を支える重要な役割を果たしている。応急仮設住宅は、被災者の生活を支える重要な役割を果たしている。応急仮設住宅は、被災者の生活を支える重要な役割を果たしている。

応急仮設住宅は、被災者の生活を支える重要な役割を果たしている。応急仮設住宅は、被災者の生活を支える重要な役割を果たしている。応急仮設住宅は、被災者の生活を支える重要な役割を果たしている。



南三陸ホテル親洋の阿部隆二副社長（左）と阿部恵子女将。バックに写っているのは館内に展示されている震災関連のパネル。

東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）は、震災発生から14年経つ現在も、被災者や高齢者など、自給自足の機能が低下している。応急仮設住宅は、被災者の生活を支える重要な役割を果たしている。

必要戸数	引き渡し戸数	
岩手県	13,984	13,984
宮城県	22,095	22,095
福島県	17,233	16,800
茨城県	10	120
千葉県	230	230
栃木県		20
長野県	55	55
計	53,627	53,194

出典：国土交通省資料(平成25年9月4日)より作成



復興に歩む東日本大震災被災地の福島。来年3月で被災から14年を迎える中、福島が制限されている。地元大手のいわきタクシーグループ（南相馬市）富岡町大熊町、（福島県いわき市）門馬成美代表は、復興に向けた取り組みを語る。

01年3月11日。巨大地震による津波は、小名浜から500以上の位置にある本社の目撃まで迫ったが、幸いに避難を逃れた。営業車も無事だった。

代表は前福島県タクシー協会会長、いわきタクシー協会副会長として活動する。いわきタクシーグループは、避難住民の一時帰宅をサポートし、水素燃料電池車（FCV）を積極的に導入する。政府側から日本バス協会の車両提供リストを80台に用意している。いわきタクシーグループが運転業務を専任で引き受けた。門馬代表は、「他のバス会社が、労働組合の反対もあり、一時帰宅をサポートするのは、いわきタクシーの強み」と語る。いわきタクシーは、いわき市を中心に、タクシー事業者を支援している。